

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	新潟青陵大学短期大学部
設置者名	学校法人新潟青陵学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門 科目	合計		
—	人間総合学科 人間総合コース	夜・通信	—	—	97	97	7	
	人間総合学科 介護福祉コース	夜・通信			166	166	7	
	幼児教育学科	夜・通信			64	64	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.n-seiryu.ac.jp/about/open_info/syllabus/syllabus2019/#co_001

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	新潟青陵大学短期大学部
設置者名	学校法人新潟青陵学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.n-seiryu.ac.jp/about/board/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社代表取締役 社会福祉法人理事	2018. 4. 1 ~ 2022. 3. 31	学校法人運営、教育 (福祉)
非常勤	市医師会顧問 医療法人理事長	2021. 1. 1 ~ 2024. 3. 31	学校法人運営、教育 (医療・福祉)
非常勤	元県看護協会会長	2019. 4. 1 ~ 2023. 3. 31	学校法人運営、教育 (医療)
非常勤	株式会社代表取締役会 長	2019. 4. 1 ~ 2023. 3. 31	学校法人運営
非常勤	株式会社代表取締役会 長	2021. 1. 1 ~ 2024. 3. 31	学校法人運営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新潟青陵大学短期大学部
設置者名	学校法人新潟青陵学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>シラバスは、科目担当者がシラバス作成ガイドラインに沿って作成している。作成されたシラバスは学内における科目担当者以外の第三者によって点検され、不備があった場合は、教務委員会より科目担当者に修正を依頼している。</p> <p>シラバスの項目については、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、実務経験のある教員など、学生が当該科目の履修や授業に取り組むにあたって必要な情報を網羅している。</p> <p>また、FD研修会にて「シラバス作成ガイドラインに沿ったシラバス作成」(2020年1月)を開催し、シラバスガイドラインについて解説・周知するとともに適切なシラバス作成を推進している。</p> <p>シラバス作成時期については、2月に科目担当者に作成を依頼した後、3月にシラバスガイドラインに沿って作成されているか点検を実施し、記載項目の確認を行っている。点検終了後、4月に学生・教職員に公表し、あわせて本学ホームページでも公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	http://www.n-seiryu.ac.jp/about/open_info/syllabus/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバスに記載する成績評価方法を「試験」「小テスト」「レポート」「学習態度」「その他」の5項目とし、その評価割合を明示している。「学習態度」「その他」については、その具体的な内容についてもシラバスに記載することとしている。各科目担当者は、シラバスに記載され、学生にも事前に公表された客観的な評価方法に則って成績評価を行っている。</p> <p>なお、成績評価を受けるためには、授業回数の3分の2以上の出席を満たしていることを前提条件としている。成績評価は100点満点の評点で行っているが、合格者は評価内容に応じて設定された成績評価基準の評点に基づきながら、S・A・B・Cの4段階の評語で区別している。</p> <p>また、本学アセスメントポリシーに基づく教育課程レベル・授業科目レベルの学修成果の評価・検証の理解と、適切な成績評価の実施を目的としたFD研修会「アセスメントポリシーを踏まえた成績評価について」(2019年9月)を実施し、厳格かつ適正な成績評価を推進している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価の客観的な指標としてG P Aを導入している。G P Aの算出方法は、S・A・B・Cの4段階の評語を4.0・3.0・2.0・1.0のポイントに換算し、各科目の(単位数×ポイント)の合計÷総単位数(総履修登録単位の総数 ※「不合格(F)」および「評価なし(N)」の単位数を含む)で算出している。この算出方法に則ってG P Aを算出し、成績評価と合せて半期ごとに学生に通知している。</p> <p>G P AはC A P制による履修登録の上限の指標として活用するだけでなく、各学期のG P A2.0未達の学生にはアドバイザーから学修指導受けること、また、3学期連続してG P Aが1.0未達であった学生は学長から退学勧告を受けることとして、早期に学生の学修改善の意欲の向上を図るためにも活用している。</p> <p>G P Aの算出方法をはじめ、履修登録上限単位数との関連や退学勧告・学修指導の基準などの詳細についても、学生便覧に掲載するとともにオリエンテーション等の際に周知している。また、学生のG P Aの分布状況を学科学年別に半期ごとに算出し、教授会に報告するとともに、学生にもその結果について公表している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>http://www.n-seiryu.ac.jp/about/open_info/hyoka/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>各学科の卒業の認定方針(ディプロマポリシー)については以下のとおり策定し、学生便覧に掲載して学生に周知し、本学ホームページで公開している。</p> <p>【人間総合学科】 人間総合コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に根差した社会人として活躍するためのマナー及び一般教養、社会常識を身につけている。 2. 職業人として社会で求められる資質と倫理観を有する「就業力」を備えている。 3. 選択した履修コースの専門分野における知識、技能、素養を備えている。 4. 取得希望の資格に係る基礎的な知識と技能を身につけている。 5. 多様な分野での活躍が可能な向上心、知的応用力、協調性がある。 6. 生活者、消費者の視点から物事を論理的に考え、適切な判断ができる。 <p>介護福祉コース</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合的な学力と豊かな人間性を養い、介護福祉士としての知識と技能を兼ねそなえたスペシャリストとして働ける力を身につけている。 2. 福祉現場で必要とされる円滑なコミュニケーション能力と倫理的態度を身につけ、現場では多職種協働によるチームアプローチが必要であることが理解できる。 3. 卒業まで学習に励むことによって、問題解決能力を養い、どのような事態に遭遇しても的確な対応ができる能力を身につけている。 4. 社会人として、また介護福祉士として、自分自身が果たすべき役割や使命を考え実行できる能力を身につけている。 	

【幼児教育学科】

1. 保育者としての知識と技能、問題解決能力を身につけている。
2. 保育現場で必要とされている多様な表現方法を習得している。
3. 社会から要請される保育について、主体的かつ創造的に実践することができる。
4. 保育現場に臨む際の人権尊重の精神と礼節を身につけている。

また、各授業科目とディプロマポリシーとの関連については、ディプロマポリシーとカリキュラムとの関連度を◎（強く関連している）○（関連している）で示した対照表を作成して学生に周知していることに加え、シラバスにおいても各成績評価方法がどのディプロマポリシーと関連しているのかを明示することによって、卒業の認定方針の適切な運用を推進している。

本学短期大学部各学科の卒業要件は以下のとおり。

・学生が卒業資格を得るためには、次の各号に定める単位を含め、62 単位以上を取得しなければならない。

1. 人間総合学科の卒業資格を得るための単位数には、ベーシックフィールド中の必修 8 単位及び同フィールド中の選択科目から 7 単位を含むものとする。
2. 幼児教育学科は、一般教育科目について人文の分野、社会の分野、自然の分野からそれぞれ 2 単位以上、前段を除く一般教育科目、外国語科目、または保健体育科目から 8 単位以上、専門教育科目について 48 単位以上とする。

卒業判定の手順については、2 年以上在学した学生に対して、定期試験、追試験、再試験終了後の最終成績に基づき、卒業要件の単位数を修得した学生に対して教務委員会で審議し、教授会の議を経た後、学長が卒業を認定している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<http://www.n-seiryu.ac.jp/faculty/nsujc/human/policy/>
http://www.n-seiryu.ac.jp/faculty/nsujc/child_ed/policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	新潟青陵大学短期大学部
設置者名	学校法人新潟青陵学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.n-seiryu.ac.jp/cms/wp-content/themes/seiryu/images/page/about/open_info/plan/2020tai.pdf
収支計算書又は損益計算書	http://www.n-seiryu.ac.jp/cms/wp-content/themes/seiryu/images/page/about/open_info/plan/2020shushi.pdf
財産目録	http://www.n-seiryu.ac.jp/cms/wp-content/themes/seiryu/images/page/about/open_info/plan/2020mokuroku.pdf
事業報告書	http://www.n-seiryu.ac.jp/cms/wp-content/themes/seiryu/images/page/about/open_info/plan/2020jigyohoukokusyo.pdf
監事による監査報告(書)	http://www.n-seiryu.ac.jp/cms/wp-content/themes/seiryu/images/page/about/open_info/plan/2020kansa.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:学校法人新潟青陵学園2021年度事業計画 対象年度:2021年度)
公表方法: http://www.n-seiryu.ac.jp/cms/wp-content/themes/seiryu/images/page/about/open_info/plan/2021jigyokeikakusyo.pdf
中長期計画(名称:新潟青陵大学短期大学部中期計画(2018年度~2022年度) 対象年度:2018年度~2022年度)
公表方法: http://www.n-seiryu.ac.jp/cms/wp-content/themes/seiryu/images/page/about/open_info/plan/H30_34plan.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.n-seiryu.ac.jp/about/hyoka/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.n-seiryu.ac.jp/cms/wp-content/themes/seiryu/images/page/about/hyoka/2020tandaihyokakekka.pdf
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間総合学科
教育研究上の目的 (公表方法： http://www.n-seiryu.ac.jp/faculty/nsujc/human/policy/) (概要) 人間総合学科の教育上の目的は、人生に目的(志)を持ち、それを実現するに十分な表現能力や豊かな感性とライフサイクルに対応して地域社会に貢献できる知識や技術(多様な資格と検定)を身につけた人材を養成することにある。(新潟青陵大学短期大学部学則 第 3 条第 2 項)
卒業の認定に関する方針 (公表方法： http://www.n-seiryu.ac.jp/faculty/nsujc/human/policy/) (概要) 【人間総合コース】 <ul style="list-style-type: none">・地域に根差した社会人として活躍するためのマナー及び一般教養、社会常識を身につけている。・職業人として社会で求められる資質と倫理観を有する「就業力」を備えている。・選択した履修コースの専門分野における知識、技能、素養を備えている。・取得希望の資格に係る基礎的な知識と技能を身につけている。・多様な分野での活躍が可能な向上心、知的応用力、協調性がある。・生活者、消費者の視点から物事を論理的に考え、適切な判断ができる。 【介護福祉コース】 <ul style="list-style-type: none">・総合的な学力と豊かな人間性を養い、介護福祉士としての知識と技能を兼ねそなえたスペシャリストとして働ける力を身につけている。・福祉現場で必要とされる円滑なコミュニケーション能力と倫理的態度を身につけ、現場では多職種協働によるチームアプローチが必要であることが理解できる。・卒業まで学習に励むことによって、問題解決能力を養い、どのような事態に遭遇しても的確な対応ができる能力を身につけている。・社会人として、また介護福祉士として、自分自身が果たすべき役割や使命を考え実行できる能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： http://www.n-seiryu.ac.jp/faculty/nsujc/human/policy/) (概要) 【人間総合コース】 <ul style="list-style-type: none">・初年次教育において、専門分野を学ぶための基礎的な学習方法を身につける。・地域や企業理解を深め、社会人となるための教養やマナーを身につける。・あらゆるビジネスのベースとなる知識と技能を修得し、基本的な仕事力を養成する。・ビジネスシーンに必要なマナー、文書作成能力、コミュニケーション力を身につける。・専門科目を履修コースごとに体系的に履修できるよう構成し、基礎的科目から専門的な科目、実践的な科目へと展開するとともに、能動的学修の充実を図る。・ビジネス系の資格を広く取得できるよう、並びに各履修コースの特色ある資格取得を可能とする。・社会生活を豊かなものとするための文化、芸術など幅広い教養を身につける。・進学(4年制大学への3年次編入)希望者には、体系的かつ実践的な履修を展開する。

<p>【介護福祉コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育において、専門分野を学ぶための基礎的な学習方法を身につける。 ・介護福祉士養成課程における、「人間と社会」、「介護」、「こころとからだのしくみ」、「医療的ケア」等の分野ごとの介護の専門的知識・技術を学ぶ。 ・介護の各専門分野において、基礎的な内容から、より専門的な科目、実践的な科目へと展開するとともに、能動的学修の充実を図り、地域における生活支援の実践力を身につける。 ・介護の基礎となる教養を身につけ、専門職としての倫理的態度を涵養する。 ・その人のおかれている環境の中で理解できる能力を身につけ、相手の立場に立って関わることのできる心豊かな人間を育成する。 ・福祉マインドと問題解決能力をもったチームマネジメント能力を身につけ、介護職のリーダーを目指す人材を育成する。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.n-seiryu.ac.jp/faculty/nsujc/human/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>【人間総合コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明確な目的意識をもち、本コースにおける学修のための基礎学力を有する人 ・ビジネス、会計実務、ファッション、インテリア、フード、観光、ブライダル、英語などのいずれかの分野に興味関心をもち、積極的に学ぼうとする人 ・協調性を重んじ、人と人とのコミュニケーションを大切にする人 ・地域社会に貢献できる知識・技能を身につけたいという意思をもつ人 <p>【介護福祉コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉や介護福祉の課題に関心をもち、専門的な知識や技術の習得に努力を惜しまない人 ・高齢者や障がいをもつ人の気持ちを理解し、生命の尊さや人間の尊厳を大切にする人 ・豊かな感性をもち、積極的に高齢者や障がいをもつ人との交流を大切にし、そこで責任ある行動がとれる人 ・介護福祉分野において幅広い職業人としての研鑽を積み、福祉マインドと問題解決能力をもって地域社会への貢献を目指す人 ・本コースにおける学修のための基礎的知識をもっている人

<p>学部等名 幼児教育学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：http://www.n-seiryu.ac.jp/faculty/nsujc/child_ed/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>幼児教育学科の教育上の目的は、幼児教育分野における実践的教育を通して、万物に対する深い愛と広い視野、豊かな感性をもって保育を創造することができる専門家を養成することにある。(新潟青陵大学短期大学部学則 第3条第3項)</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：http://www.n-seiryu.ac.jp/faculty/nsujc/child_ed/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者としての知識と技能、問題解決能力を身につけている。 ・保育現場で必要とされている多様な表現方法を習得している。 ・社会から要請される保育について、主体的かつ創造的に実践することができる。 ・保育現場に臨む際の人権尊重の精神と礼節を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： http://www.n-seiryu.ac.jp/faculty/nsujc/child_ed/policy/)
(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育において、専門分野を学ぶための基礎的な学習方法を身につける。 ・教育学、社会福祉学、心理学、保育における5領域に関する講義、演習群を通して、保育者の基礎的な知識・技能を養う。 ・保育に関わる理論とともに、実技・実習を重視し、保育者としての実践力を養う。 ・保育の各専門分野において、基礎的な内容から、より専門的な科目、実践的な科目へと展開するとともに、能動的学修の充実を図る。 ・実習指導の活動を核に、実習に関するサポートをきめ細かく行い、理論と実践の有機的な統合ができるよう配慮する。 ・領域「表現」において、3分野（音楽・造形・身体）それぞれの表現指導法を設置し、充実を図る。 ・共感する心とそれを表現する力を養い、保育者としての豊かな感性と創造性を育む。 ・様々な保育の現場に対応するために、人権尊重の保育と基本的な礼節を重視し、演習や実習指導に取り組む。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： http://www.n-seiryu.ac.jp/faculty/nsujc/child_ed/policy/)
(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・保育をめざす高い志と、本学での就学に必要な基礎学力及び、基礎技能をもつ人 ・積極的に学ぶ意欲と臨機応変に課題に取り組める人 ・明朗活発で協調性があり、対人関係を円滑に築くことができる人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： 短期大学部組織図 http://www.n-seiryu.ac.jp/cms/wp-content/themes/seiryu/images/page/about/open_info/2020_nsujc_soshikizu.pdf 法人事務組織図 http://www.n-seiryu.ac.jp/about/organigram/
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	2人	－					2人
人間総合学科	－	6人	10人	0人	3人	1人	20人
幼児教育学科	－	3人	6人	0人	3人	1人	13人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		64人					64人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://www.n-seiryu.ac.jp/faculty/teachers/					

c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）
本学は、授業内容、授業方法の改善・向上を図るための取り組みとして、FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会を設け、各種研修、授業改善のためのアンケート、学生意識調査、教育活動支援、その他教育改善に資する活動を組織的に実施している。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間総合学科	200人	208人	104%	400人	415人	104%	0人	0人
幼児教育学科	130人	128人	98%	260人	258人	99%	0人	0人
合計	330人	336人	102%	660人	673人	102%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間総合学科	218人 (100%)	16人 (7.3%)	177人 (81.2%)	25人 (11.5%)
幼児教育学科	133人 (100%)	6人 (4.5%)	127人 (95.5%)	0人 (0%)
合計	351人 (100%)	22人 (6.3%)	304人 (86.6%)	25人 (7.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 新潟市・村上市・新発田市・五泉市・三条市・柏崎市・上越市 職員(保育士)、㈱大光銀行、㈱ブルボン、㈱雅裳苑、新潟大学、新潟青陵大学 等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
人間総合学科	227人 (100%)	218人 (96.0%)	0人 (0%)	8人 (3.5%)	1人 (0.5%)
幼児教育学科	133人 (100%)	131人 (98.4%)	1人 (0.8%)	1人 (0.8%)	0人 (0%)
合計	360人 (100%)	349人 (96.9%)	1人 (0.3%)	9人 (2.5%)	1人 (0.3%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスは、科目担当者がシラバス作成ガイドラインに沿って作成している。作成されたシラバスは学内における科目担当者以外の第三者によって点検され、不備があった場合は、教務委員会より科目担当者に修正を依頼している。</p> <p>シラバスの項目については、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準、実務経験のある教員など、学生が当該科目の履修や授業に取り組むにあたって必要な情報を網羅している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>シラバスに記載する成績評価方法を「試験」「小テスト」「レポート」「学習態度」「その他」の5項目とし、その評価割合を明示している。「学習態度」「その他」については、その具体的な内容についてもシラバスに記載することとしている。</p> <p>なお、成績評価を受けるためには、授業回数の3分の2以上の出席を満たしていることを前提条件としている。成績評価は100点満点の評点で行っているが、合格者は評価内容に応じて設定された成績評価基準の評点に基づきながら、S・A・B・Cの4段階の評語で区別している。成績評価の客観的な指標としてGPAを導入している。GPAの算出方法は、S・A・B・Cの4段階の評語を4.0・3.0・2.0・1.0のポイントに換算し、各科目の(単位数×ポイント)の合計÷総単位数(総履修登録単位の総数 ※「不合格(F)」および「評価なし(N)」の単位数を含む)で算出している。この算出方法に則ってGPAを算出し、成績評価と合せて半期ごとに学生に通知している。</p> <p>本学短期大学部各学科の卒業要件は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が卒業資格を得るためには、次の各号に定める単位を含め、62単位以上を取得しなければならない。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間総合学科の卒業資格を得るための単位数には、ベーシックフィールド中の必修8単位及び同フィールド中の選択科目から7単位を含むものとする。 2. 幼児教育学科は、一般教育科目について人文の分野、社会の分野、自然の分野からそれぞれ2単位以上、前段を除く一般教育科目、外国語科目、または保健体育科目から8単位以上、専門教育科目について48単位以上とする。 <p>卒業判定の手順については、2年以上在学した学生に対して、定期試験、追試験、再試験終了後の最終成績に基づき、卒業要件の単位数を修得した学生に対して教務委員会で判定し、教授会の議を経た後、学長が卒業を認定している。</p>
--

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項) ※1
	人間総合学科	62単位	有・無	29単位
	幼児教育学科	62単位	有・無	29単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況(任意記載事項) ※2		公表方法： http://www.n-seiryu.ac.jp/about/open_info/hyoka/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項) ※3		公表方法： http://www.n-seiryu.ac.jp/digitalpanph/		

※1 成績評価の結果により登録上限数に増減あり

※2 2021年度生の「履修規程」第3条(履修登録)、第10条(成績の評価)、第11条(履修指導・退学勧告)、を参照

※3 YEAR BOOK2020-2021 p.30-31 参照

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

http://www.n-seiryu.ac.jp/about/open_info/

1. 教育情報(学校教育法施行規則第172条の2関係)に関わる情報の公開
- (7) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考
人間総合学科人間総合コース	580,000円	240,000円	303,550円	施設設備費 265,000円 休学中の在籍料 (半期) 66,250円
人間総合学科介護福祉コース	580,000円	240,000円	403,550円	
幼児教育学科	580,000円	240,000円	334,050円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要) 遠方居住者・特待生(一般入試成績上位者)を対象とした授業料減免制度(全額または半額)、また、学業優秀奨学金(入学試験成績優秀者)・親子奨学金・兄弟姉妹奨学金・新潟青陵大学進学奨学金など本学独自の制度や、日本学生支援機構奨学金等の制度を紹介し、活用を促すことで学生の修学支援を行っている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要) 大学短大 Web 合同企業説明会開催(2月)、短大保護者懇談会ブース型開催(11月:1~2年全学生・保護者対象)、卒業年次全学科在学生への個別面談完全実施等、コロナ禍で多様化する学生のみならず保護者を巻き込んだ担当部局(キャリア支援課)、教職協働による詳細な相談会及びWebセミナーを充実させている。
 今後は、コロナ禍での就職情報の精査を踏まえ、より詳細で的確な進路選択を可能とする個別面談、採用Web化対応を充実させる方向にて推進予定である。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要) 学生が大学生活をより快適に送れるよう、臨床心理士を常駐させた「キャンパスライフサポート室」、学生の健康保持・増進を目的とした「保健室」・「学生相談室」を設置。困りごとや悩みごとの相談・応急処置・健康相談・実習前に必要な検査等を実施し、学生の心身の健康に係る支援を行っている。また、障がいのある学生については、本人(及び保護者)と本学との合意形成の下、学生委員会を中心に教員及び関係部署が緊密に連携し、合理的配慮に基づく支援を提供している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：http://www.n-seiryu.ac.jp/about/open_info/

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F215310105256
学校名	新潟青陵大学短期大学部
設置者名	学校法人 新潟青陵学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		96人	91人	99人
内 訳	第Ⅰ区分	53人	54人	
	第Ⅱ区分	20人	26人	
	第Ⅲ区分	23人	11人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				99人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	0人
「警告」の区分に連続して該当		0人	-
計		0人	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間		前半期	0人 後半期 0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)		0人	0人
G P A等が下位4分の1		-	-
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況		-	-
計		-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。